このたびは当商品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
製品を安全にご使用頂きますためにも、取扱説明書をよくお読み頂きますようお願い申し上げます。
この取扱説明書は、いつでも内容が確認できるように大切に保管してください。

注意事項

・目的以外の用途に 使用しないでください。

・ご使用の場合には必ず、附属の接地アダプターを取り付けてください。

・必ず 本体下部にある 透明の ホイールアクセスカバーは取り付けたままご使用ください。

・作業場はきれいにしておいてください。散らかった場所での作業は事故をまねきかねません。

・危険な環境下での作動はさせないでください。

・湿った場所や濡れた所で使用、保管しないでください。感電事故の原因になります。

・明るい場所で作動させてください。又、可燃性の液体や気体がある場所での作動はさせないでください。

・作動時に子供を作業場に近づけないでください。また、作業者以外の方の安全を確保してください。

・作業時に無理な力をかけないでください。使用説明書にあるように動作させてください。

・適正な延長コードをご使用ください。延長コードが適した状態にあり、ドリルドクターの動作に必要な
　　電流量（1.75A）を供給できるものを選択ください。
・１５分以上連続して使用しないでください。使用後は ５分以上時間を空けて再度使用してください。

・製品をご使用の際には安全眼鏡と防護マスクを必ずご着用ください。破れた服や手袋、ネクタイ、指輪、
　　ブレスレット等のアクセサリーは、危険です。また、安全靴での作業をお勧めします。

・安全な作業をしてください。出来ればクランプやバイスグリップを使用して機械を固定してください。

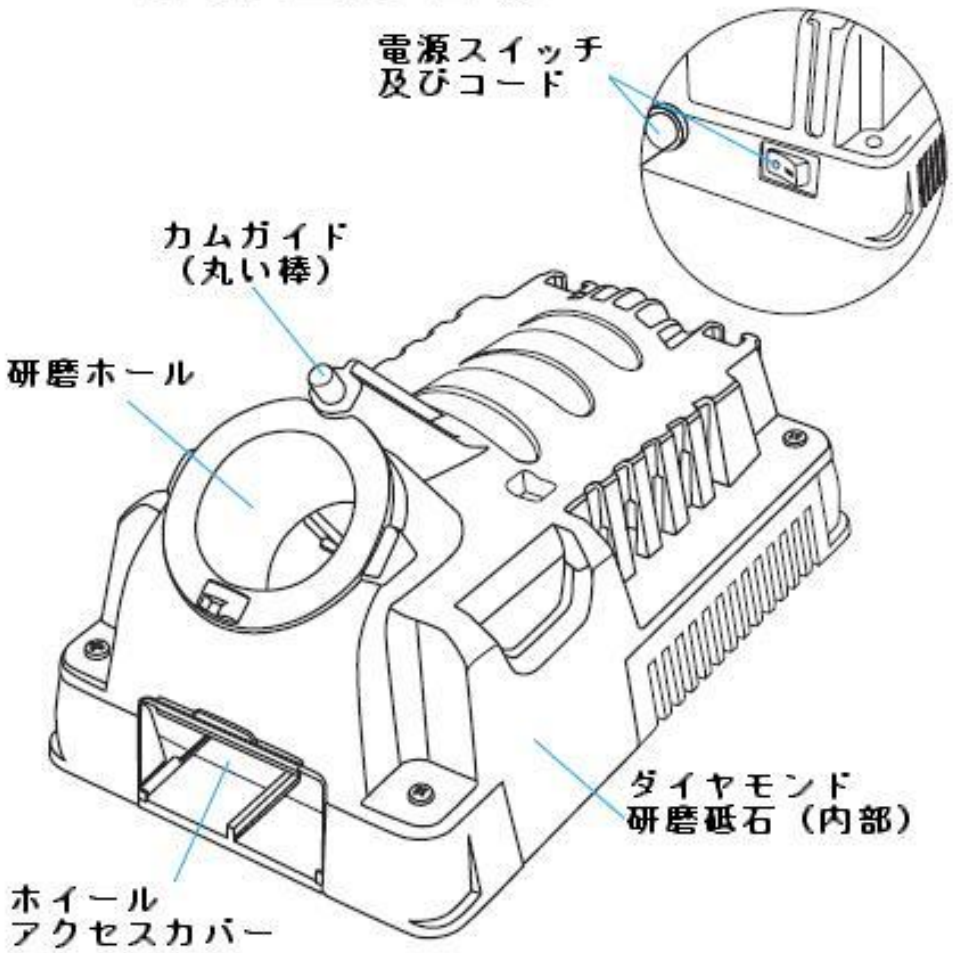
・清掃やメンテナンスをする時は 必ずスイッチを切り、プラグを電源から抜いてください。

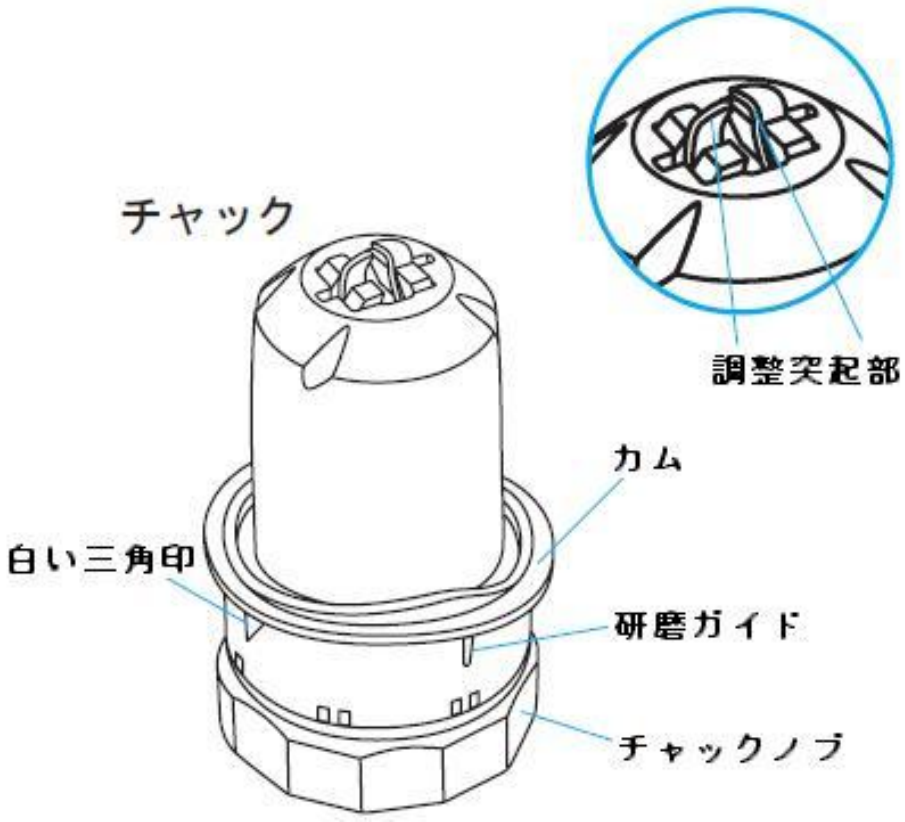
・ご使用の前に、透明カバーや他の部品が破損していないかご確認ください。
　　破損、故障が発見されたら ただちに使用をおやめください。

・スイッチを入れたままの離席はしないでください。

・小さなお子さんの手の届かない所に保管してください。

ドリルドクターＤＤ３６０
各部位の名称





・ドリルの種類

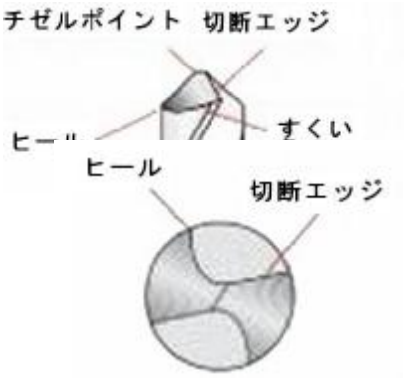
標準ドリル

このタイプは冷間材、アルミニウム、木材など柔らかい材質のものに使用されます。

コンクリート用ドリル

このタイプは先端に超硬チップが埋められており、セメント、レンガ、セラミックなどのような材料に使用されます

・ドリルの仕組み



ドリルには左図のような仕組みがあります。
よく研磨されたドリルを見ますと、切断エッジからヒールまでが一定に研磨され、段や凸凹が見られません。

ヒールは切断エッジより常に低い位置にあります。

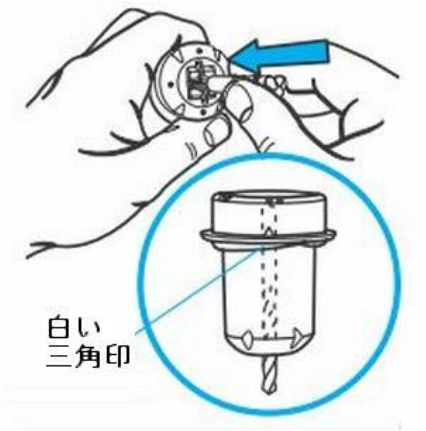
・使用方法の流れ

ドリルを本品のチャックへセット
（12．7mm程度出して軽く締める）
↓
ドリル溝のエッジ調整
（ドリルを回してドリル調整爪がドリルの溝のエッジに当たるようにする）
↓
ドリルの長さを調整してチャックを締める
（電源を入れないでチャックを研磨ホールにドリルの先が当たるまで差込み、ドリルの長さを調整した後に チャックを 取り出し 本締をする）
↓
電源を入れ、研磨ホールにチャックを差込む
（研磨ホールのカムガイド＝丸い棒と 研磨チャックの研磨ガイド＝白い線が直線になるように差し込む）
↓
時計回りに研磨チャックを手で回す
（2．4mm- 1～2回転、 3．0mm- 2～3回転、
9．5mm- 8～10回転）
↓
研磨状態のチェック
（8ページの図でチェック）

Ⅰ-ドリルの研磨

1.ドリルのチャックへのセッティング

。



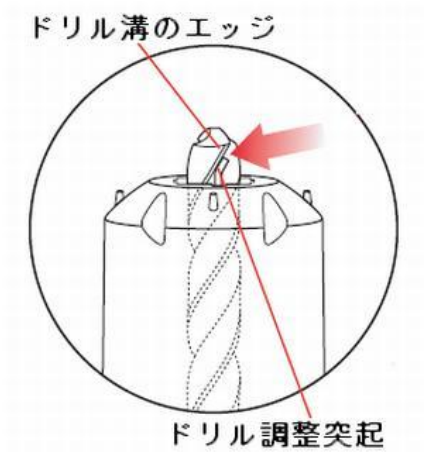
白い三角印が上部になるようにチャックを持ち、ドリルの先端が １２．７mmぐらい出るところまでドリルを挿入してください。

2..チャックを軽く締めます

チャックノブを回して軽く締めます。
ただし、指でドリルを引っ張ることが出来て、かつチャックを下に向けた際に落ちない程度に締め付けて下さい。

ステップ４でドリルの深さを決定するまで完全に締めないでください。

3.ドリル溝のエッジの調節



ドリル溝のエッジがドリル調整突起に沿うようにドリルを回してください。
これで正確な研磨が可能になります。

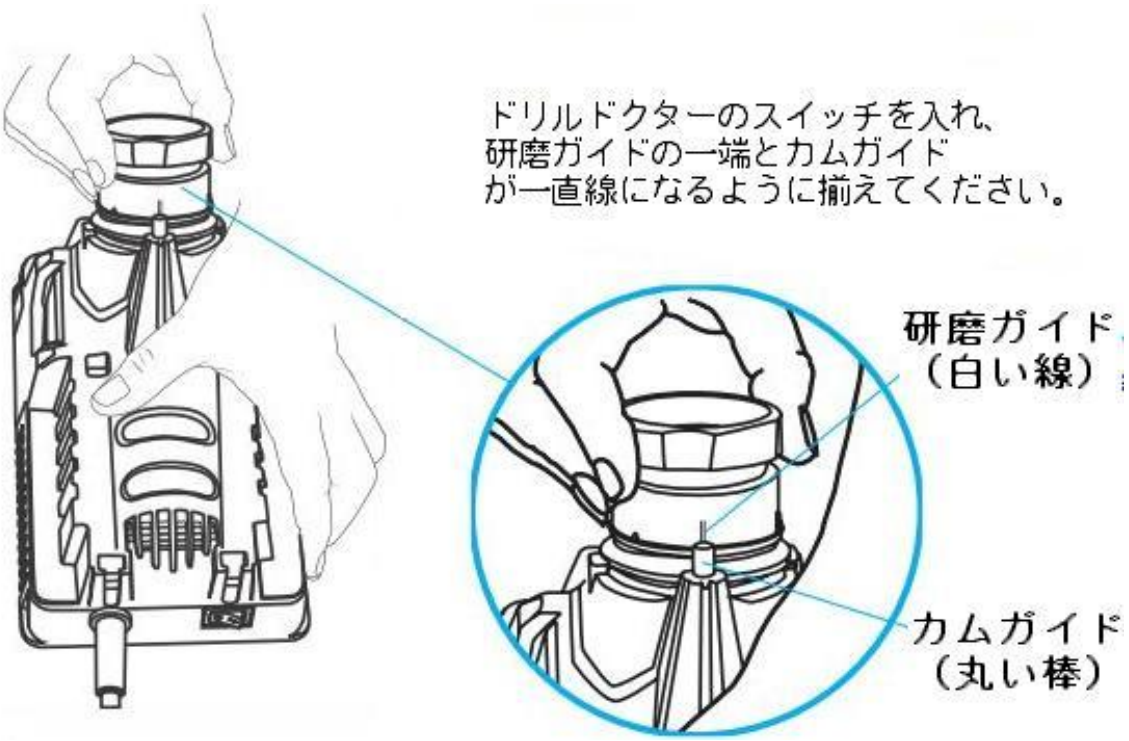
5.チャックを締めます

機械のスイッチを切ったままで、チャックにある白い三角印をカムガイドにそろえてください。
そのままチャックを研磨ホールに挿入し、ドリルは触れずにチャックのみ押し込んでください。
チャックが研磨ホールに挿入された状態で、チャックノブを締めます。
さらにチャックを研磨ホールから取り出し、本締めしてください。ビットがしっかり固定されているかご確認ください。
これでドリルの深さが調整され、研磨の準備ができました。

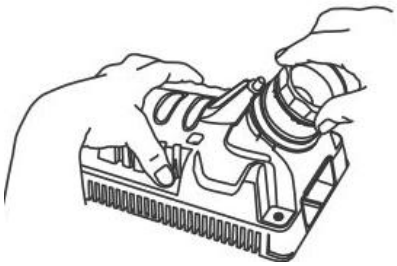
ドリルを研磨する前の作業のポイント

・研磨時はチャックの研磨ガイド（白線）と カムガイドが一直線になるように、
　チャックをまっすぐに挿入してください。
・ドリルドクターのスイッチを入れないで チャックを研磨ホールに差し込んで
　チャックを回転させてゆくと「ズズズ・・・」と 研磨音がします。
　これが適正にドリルがチャックにセットされた証拠です。その際、チャックを半回転させると チャックがカムガイドに乗り上げます。
・研磨時には チャックに軽く力を入れるだけで研磨する事が出来ます。

6.ドリルの研磨−研磨ガイドとカムガイドを揃える



７．ビットが研磨されるまで回転させます。



チャックを研磨ホールに挿入します。
カムガイドに沿わせながら 最初の研磨ガイド（白い線）から 次の研磨ガイドへと時計回りにチャックを 回転させます。
研磨ガイドから研磨ガイドへの繰り返しはドリルの径によって、数回、回転させます。

一定の速度で回転させるようにしてください。
また、ドリルの両側面を同じ回数研磨してください。
研磨数は、ドリル径によっても異なります。

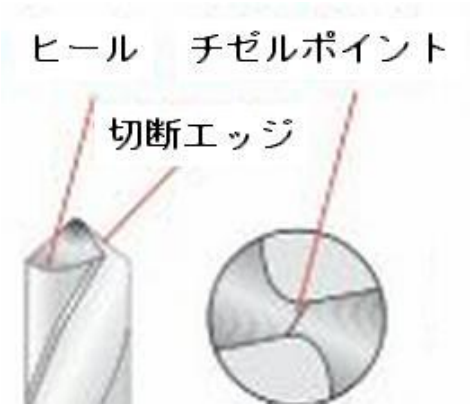
推奨の研磨回数は、以下を参照ください。
２．４mm・・・１～２回転
３mm　　・・・２～３回転
９．５mm・・・８～１０回転

注：カムがカムガイドに沿うように、あくまで機械に研磨させてください。

・１５分以上連続して使用しないでください。
　　使用後は ５分以上時間を空けて再度使用してください。

８.正確に研磨されたかどうかを確認。

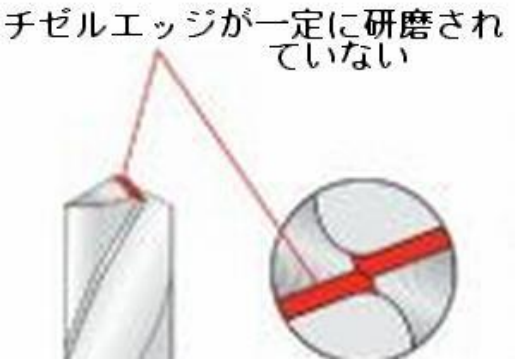
・正確に研磨されたドリル



切断エッジからヒールまでが一定に研磨され、段やギザギザがあってはなりません。
ヒールは常に切断エッジより低い位置にあります。
チゼルポイントはまっすぐになっています。

・正確に研磨されていないドリル

・チゼルエッジが一定に研磨されていない場合



原因−チャックにドリルが適正にセットされていません。

対策−５ページの　1−ドリルのチャックへのセッティングを見ていただき、再度セットしてください。

・ビットの表面が均一でなかったり、研磨音が大きかったりする

原因−チャックからドリルの先端が出すぎている。

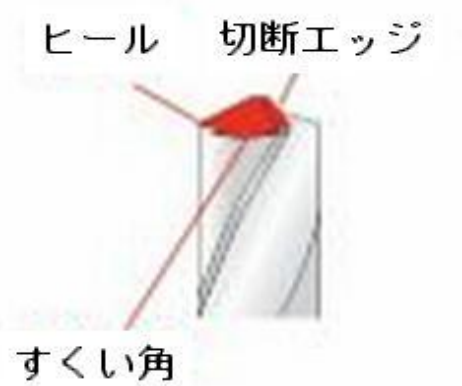
対策−ドリルを再度チャックにセットしてください。

研磨ホールにチャックをセットする際に白い三角印がカムガイドに一直線に揃っているかどうか確認してください。

ドリルはチャックを押し込んで先端が内部の研磨砥石に当った際に若干押し戻され、少し回転します。

チャックが研磨ホールに完全に挿入されるまで押し込んでください。

・ヒールが切断エッジと同じ高さになっているか 高い



原因−ドリルが適切にチャックに設定されていないか、研磨時にカムがカムガイドに沿っていない。

対策−再度、ドリルをチャックにセットしなおしてください。

また、研磨時にカムがカムガイドに沿うように圧力をかけすぎないようにご注意ください。

・研磨時にビットがチャックから外れたり、空回りしたりする。

原因−チャックの締めがゆるすぎるか、研磨時にチャックに力を入れすぎている。

対策−チャックを増し締めしていただくか、研磨時にチャックに力を入れすぎないようにしてください。

また、エアーでチャックを清掃してください。

Ⅱ-異なるサイズ、種類のドリル研磨について

1-異なるサイズのドリル

小さなサイズのドリルで過剰な研磨も、大きなサイズのドリルでの研磨不足も、正確な研磨をもたらしません。

チゼルポイントがまっすぐになって、切断エッジからヒールまでが一定になるまで研磨を続けてください。

以下、ドリルサイズの研磨回数の目安をご参考にしてください。

２．４mm径-　１～２回転

３．２mm径-　２～３回転

９．５mm径-　８～１０回転

2-大きなサイズのドリル

大きなドリル(９．５～１２．７mm径)ではさらに多くの研磨が求められます。

切断エッジからヒールにかけて一定になるまで研磨してください。

ドリル先端が特に鈍角になっていたり、欠けたりしている場合は全ての工程を２～３回繰り返す必要があるかもしれません。

１２．７㎜径のドリルでは少なくとも１０回転は研磨してください。

3-短いドリル

ドリルドクター３６０ＸＪのタイプでは長いドリルと同様に短いドリルの研磨も簡単に行なえるようなチャックの形状をとっております。

通常の研磨通りにドリルをチャックにセットしていただき、軽くかつ少なめの研磨で十分です。

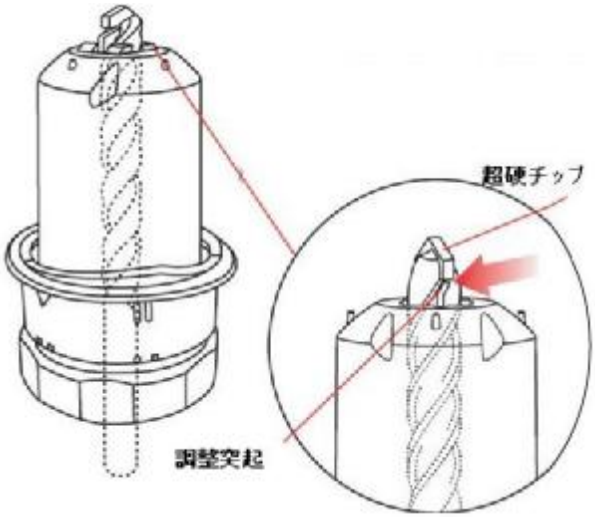
ビットは軽く研磨砥石にあたる程度にセットしてください。

チャックにある調整突起が研磨砥石に当ってもチャックを損傷する事は無く問題ありません。

Ⅲ-コンクリート用ドリルのセットと研磨

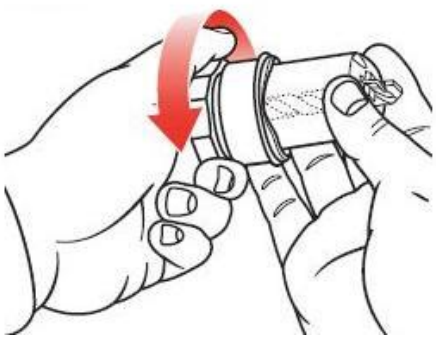
コンクリート用ドリルを研磨する際には、チャックを回転させません。中の研磨砥石に当たるまでチャックを押し込み、一旦取り外して、反対側を研磨します。

１．コンクリート用ドリルをチャックにセット



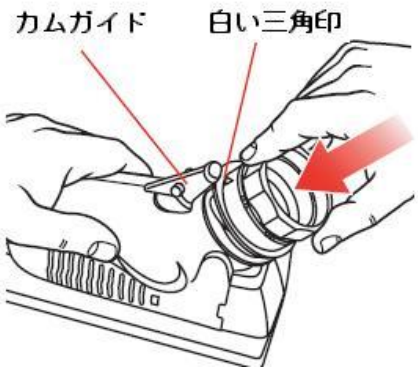
鉄工ドリルの要領と同様にコンクリート用ドリルを超鋼チップがチャックの調整突起に触れるようにチャックに挿入してください。

２．チャックを締めます



超鋼チップが調整突起に当っていることを確認して、チャックを締めてください。
この時点でドリルがしっかり固定されるまで、硬く締めます。

３．押し込んで研磨します



チャックの白い三角印を本体のカムガイドに一直線になるようにします。
ドリルドクターのスイッチを入れます。
ドリルの先端が研磨砥石に当たるまでチャックを押し込みます。
片方の研磨が終わると、一旦スイッチを切り、チャックをはずし半回転させ、再度スイッチを入れ、押し込んで研磨してください。
研磨は常に両側同回数行ってください。
ドリル先端が鋭くなるまで研磨を繰り返してください。

・１５分以上連続して使用しないでください。使用後は ５分以上時間を空けて再度使用してください。

Ⅳ- Q & A

１. 質問：ドリルが正確に研磨されないのですが・・・

回答：研磨が正確に行われない原因の多くは、ドリルのチャックへのセッティングにあります。

主な原因は

・チャックが研磨ホールに奥まで挿入されていない。

・ドリルがチャックに正確に挿入されていない。

・チャックが汚れており、セッティングをしてもすべってしまう。

１３ページの「チャックのクリーニング」の項目をご覧ください。

・小さな径のドリルで研磨をしすぎたり、大きな径のドリルで研磨不足があったりすると、正確な研磨はできません。

９ページの「異なるサイズ、種類のドリル研磨」の項目をご覧ください。

２. 質問：ドリル研磨した際に、全くドリル先端が削れていないのですが・・・

回答：この症状は、ドリルの頭がチャックから十分飛び出していない場合に生じます。。あるいはチャックがしっかり締め付けられておらずドリルがずれているかもしれません。

再度ドリルの先端を １２．７mm程度突き出してチャックにセットし、研磨ホールに挿入して長さを調節してください。

３. 質問：研磨したドリルを使用しても、よく切れないのですが・・・

回答：これはドリルのヒールが切断エッジより高い位置にあることが原因です。

再度、ドリルをチャックに挿入して調節した上で研磨してください。

研磨時において、チャックを強い力で押し付け過ぎないように注意してください。

特殊な形状の溝を持ったドリルの場合、ドリルドクターでは研磨できない事がありますのでご注意ください。

４. 質問：ドリルの先端がセンターから外れているのですが・・・

回答：もし、ドリルの先端がセンターから外れている場合、次の点をご確認ください。

片側の研磨が余計に行われている。つまり、両側同回数研磨されていない可能性があります。常に両側同回数研磨してください。

チャックに粉塵が詰まったりして、ドリルがまっすぐにセッティングされていなかった可能性があります。再度、ご確認ください。

ドリルがチャックの中で緩んでいないかどうかご確認ください。

ドリル研磨時に、両側に同様の圧力がかかっていたか、ご確認ください

５. 質問：ドリル先端の切断エッジからヒールにかけて突起が見られるのですが・・・

回答：研磨したドリルで先端に突起が見られる場合は、研磨が十分でないか研磨を途中で止めてしまったことで生じる可能性があります。
これを修正するためには、再度研磨を軽く一定の力で行なってください。
また、研磨時には きっちり チャックを半回転させ、途中で止めないでください。

６. 質問：ドリルの先端が平らになったのですが・・・

回答：ドリルをチャックにセットする段階で、チャックにある調整突起がドリルの溝ではなくシャフトをつかんでいるかもしれません。
再度、ドリルをチャックに挿入しなおして、調整突起がドリルの溝をつかむ様にしてください。

７. 質問：研磨時にチャックをに推力をかけるとドリルがおしもどされるのですが・・・

回答：研磨の前にチャックをしっかりと締めてください。また、チャックが汚れているかもしれませんので、クリーニングしてください。

V-ドリルドクターのメンテナンスについて

２０～２５本程度研磨を繰り返すと、研磨の粉塵が機械の中で溜まってきます。この粉塵は研磨ホールとチャックを磨耗させかねませんので､定期的なクリーニングを推奨します。

⚠ドリルドクターのクリーニングの前には必ずコンセントが抜かれていることをご確認ください。

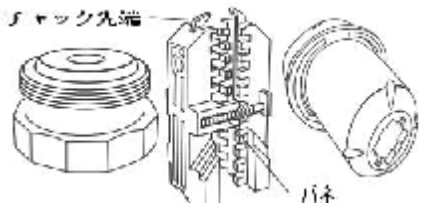
１．ホイールアクセスカバーの取外し

ドリルドクターのコンセントが抜かれていることを確認して､ホイールアクセスカバーを爪で外してください。このカバーは完全に外れます。
カバーを取り付ける際には､カバーをスロットにカチッと音が鳴るまで押し付けてください。

２．ドリルドクターのクリーニング

ドリルドクターのコンセントが外れていることを確認して、まず本体をよく振り、ホイールカバーの背後にたまっている粉塵を除去してください。
また、研磨砥石は小さなブラシで粉塵を除去してください。
ドリルについている粉塵や研磨ホールにたまっている粉塵については乾いた布で拭取ってください。また、吸引式の掃除機で吸い上げることも可能です。

３.チャックのクリーニング



ノブをチャック本体から取外し､ノブのネジ部を柔らかいブラシか布で拭取ってください。再度、チャックを組立て､ノブが軽く回転するかどうか確認してください。また､ノブを外した際にはチャック先端にある小さなバネをなくさないように気をつけてください。

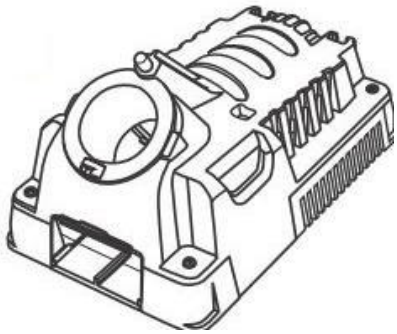
Ⅵ- ダイヤモンド研磨砥石の交換時期について

長さ１８ｍｍのダイヤモンド研磨砥石を交換する前に、反転させることで寿命が2倍になります。ドリルドクターに付随している研磨砥石は２．４～１３ｍｍのドリルで２００回の研磨には十分耐えます。
ダイヤモンド研磨材は以下の場合に交換が必要です.

・研磨速度に関わらず、ドリル先端が焼きついたり、青く変色した場合。
・ドリルドクターをコンセントから抜いた状態で研磨砥石を触った際に、表面がツルツルしている場合。
・研磨回数があまりに多くなってきた場合

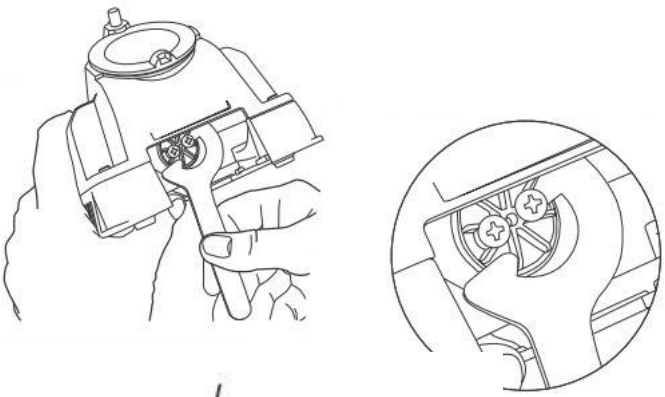
ダイヤモンド研磨砥石の反転および交換方法

１.ホールアクセスカバーの取り外し

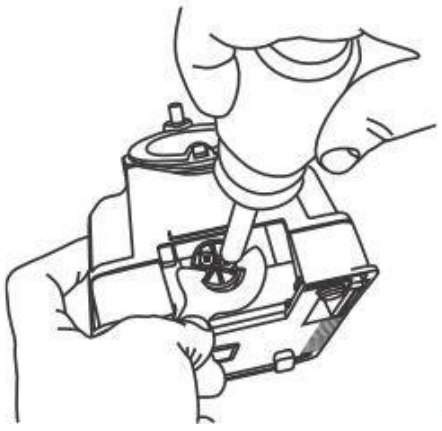


まず、ドリルドクターのコンセントを外し、機械がすでに熱を持っていないか確認してから、ホイールアクセスカバーを外します

２.砥石固定金具を取り外します。



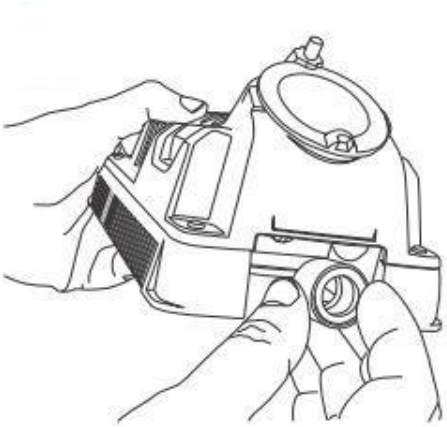
附属のレンチで砥石固定金具を固定します。



プラスのドライバーで 砥石固定金具をとめている小ねじを２本とも取り外します。

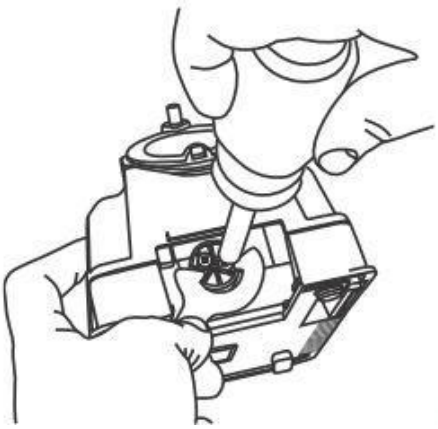
小ねじと一緒に砥石固定金具を取り外します。

３.研磨砥石を外し、交換します



そのまま、砥石を抜き、砥石を交換します。
＊１８mmの長さのダイヤモンド砥石は前後を
交換して継続して使用することが出来ます。

４.砥石固定金具を固定します。



外した手順とは逆に 砥石固定金具を 小ねじで
固定します。
＊ドリルドクターには 砥石を固定するシャフト
（筒の部分）が２種類 存在します。
１８mmの長さの場合には 小ねじは最初
から付いている小ねじを使用出来ますが、
９mmの長さのシャフトの場合には 交換
用ダイヤモンド砥石に付いている長い小ね
じをご使用ください。

Ⅶ-付属品、交換部品について

以下の付属品をご注文される場合はドリルドクターをご購入されたお店でご注文ください。

１.ドリルドクター ＃180 研磨砥石 DA31320GF （標準砥石）品番：V037174
ドリルドクター標準添付品です。

２.ドリルドクター ＃100 研磨砥石 DA31325GF（粗目砥石） 品番：V037181
先の破損したドリルを研磨する場合に使用します。

⚠

警告：上記以外の付属品を使用されますと怪我や重大な事故につながる可能性があります。

Ⅷ-保証期間について

保証期間について
本品に "ONE YAER WARRANTY"（１年保証）と表記がございますが米国国内での対応になりますのでご容赦ください。
日本国内では、不良品の場合 商品到着後２週間以内に ご購入時の レシートあるいは伝票を添えてご購入のお店にお申し出ていただければ 商品を交換致します。

Ⅸ-仕様

定格電力	：ＡＣ１００Ｖ
定格周波数	：５０／６０Ｈｚ
定格消費電力	：３６Ｗ
定格時間	：１５分　１５分以上連続して使用しないでください。 使用後は ５分以上時間を空けて再度使用してください。
屋内用	

輸入発売元
若井産業株式会社 便利もん事業部
〒577-8503 大阪府東大阪市森河内西 1-6-30
e-mail:benrimon@wakaisangyo.co.jp
URL:http://www.kanamono-oh.com/benrimon/